

岐阜県の森林・林業

森^{もり}林のたより

「ぎふの木の家フォトコンテスト2018」
工務店部門の第1回受賞投稿が決定しました!

No.785
2019 February

2

FREE

ご自由に お持ちください。



▲最優秀賞: (株) 鷺見製材

●詳細は3ページをご覧ください。

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社) 岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内 容 等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
2月1日(金)	平成30年度 岐阜県 森林・林業関係 合同発表会	●時間: 13:00~16:50 ●内容: 林業普及指導員、森林研究所、農林高校生、森林文化アカデミー、岐阜県地域森林監理士等森林・林業関係者による合同発表会 ●定員: 250名(当日参加可能)	関市わかさ・プラザ多目的ホール (関市若草通 2-1) 森林文化アカデミー内 森林技術開発・支援センター TEL 0575-35-2535
2月15日(金)	平成30年度 岐阜県治山林道 研究発表会	岐阜県内の治山林道事業に携わる技術者が一堂に会し、日頃の研究成果を発表します。	関市わかさ・プラザ多目的ホール (関市若草通 2-1) 森林整備課 / 058-272-8489 治山課 / 058-272-8526
2月18日(月)~ 2月19日(火)	課題研究公表会	アカデミーでの2年間の学びの総仕上げとして、各自で設定した課題について研究発表を行う。 ●参加費無料 ●当日参加可能	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL https://www.forest.ac.jp/



目 次 Contents	
イベントカレンダー(一般向け).....	2
100年先の森林づくりシリーズ6 治山対策の強化.....	3
ぎふの木の家フォトコンテスト2018 工務店部門.....	3
山の歳時記(162) ビワの花.....	4
木の香るぎふの施設(72) 恵那市立武並小学校 屋内運動場.....	5
岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムによる 知事へ要望活動.....	6
ぎふ木育指導員養成講座.....	7
わがまちの森林・環境行政(26) 養老町の森林づくり シリーズ:『森林・環境税』で、緑豊かな清流の国ぎふづくり(9).....	8
山のおじゃまむし(331).....	9
―越冬場所は蜂の巣、フクラスズメ―.....	10
森林と人を活かす知恵(74).....	11
あたらしく楽しく的確な「空き家対策」を目指して.....	11
治山・林道研究課題.....	12
ドローンを活用した写真測量による地形変化の把握.....	12
研究コーナー スギ・ヒノキ採種園の大害虫カメラムシ.....	13
普及コーナー 飛騨地域における普及活動.....	14
環境保全林における針広混交林化の検証を進めています.....	16
岐阜県の自然公園について.....	16
国有林の現場から(28).....	17
七宗町上麻生地区森林共同施業団地(ケーススタディ地区) 技術指導を伴う現地検討会.....	17
林業者向けお知らせ.....	18
市況.....	18

岐阜県の森林・林業 News of the forest

森 もり 林のたより

No.785 2
2019 February

表紙 ●「ぎふの木の家フォトコンテスト2018」工務店部門
の第1回受賞投稿が決定しました!

第3期岐阜県森林づくり基本計画（H29～H33）では、望ましい森林の姿へ配置転換する「100年先の森林づくり」、林業経営を重視した「生きた森林づくり」、環境保全を重視した「恵みの森林づくり」に取り組んでいます。これらの取組状況について、隔月連載でご紹介します。

◆100年先の森林づくり 強靱化対策の推進

治山対策の強化

平成30年7月豪雨災害では、岐阜県、岡山県、広島県、愛媛県等において甚大な被害を受け、林野関係被害の発生状況は36県において12,052箇所、被害額約1,368億円となっています。

このうち、岐阜県での山地被害は78箇所発生しており、被害額約27億円となっています。

近年の豪雨災害など激甚化する災害に対する山地防災力の強化として、荒廃山地の早期復旧、予防対策の推進、土砂とともに流出する流木の捕捉として、治山事業による山地災害への事前防災・減災対策が求められています。

森林が被災しやすく、集落等の保全が必要な山地災害危険地区の着手率は岐阜県76.9%と全国平均（49.2%）に比べ高い水準です。しかし、本年7月のような豪雨災害を減災するため、県は今後も災害の早期復旧、新たな治山施設の整備、土石流対策として既存治山ダムへの増圧嵩上や流木捕捉式治山ダム工の整備に取り組み、治山対策の強化に努めていきます。



平成27年度
県単治山事業（強靱化対策）
中津川市茄子川字中垣外地内

平成30年7月豪雨災害
下呂市萩原町上呂字門洞地内



【治山課 治山係】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 治山課まで

ぎふの木の家 フォトコンテスト2018 工務店部門

2月まで
開催中!!

県では、家づくりを考える際に、若い世代を中心にSNSが活用されている現状を踏まえ、Instagramを活用した「ぎふの木の家フォトコンテスト2018」を2部門（工務店部門・施主部門）で開催しています。

このたび、全対象投稿390点の中から、工務店部門の第1回受賞投稿が決定しましたのでお知らせします。受賞投稿は、県産材流通課Instagram公式アカウント「@gifu_kensanzai」で紹介しています。

■【工務店部門】募集内容

今までに、県の補助事業※を活用して新築・改修した、**自社こだわりの住宅**を投稿してください!

※対象事業は下記の4つです。
「ぎふの木で家づくり支援事業」
「ぎふの木で内装木質化支援事業」
「ぎふの木で家づくりローン支援制度」
「産直住宅普及活動支援事業（建設支援タイプ）」



ぎふの木の家 フォトコンテスト2018

検索

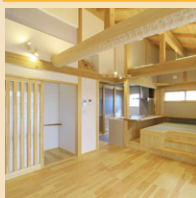
■【工務店部門】第1回受賞投稿（8～11月投稿から選定）

🏆 最優秀賞（1点）



（株）驚見製材【岐阜市】

🏆 優秀賞（2点）



（株）弘栄工務店【下呂市】



（株）中島工務店【中津川市】

投稿作品は、
#ぎふの木の家
#ぎふの工務店
で検索!

🏆 優良賞（3点）



富田製材（株）【加茂郡富加町】



（株）ヤマジョウ建設【関市】



（株）大和工務店【関市】

【問い合わせ先】 ぎふの木の家フォトコンテスト事務局（岐阜県林政部県産材流通課） TEL:058-272-8487



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「ハァー、ハァー」とかじかむ手に息を吹きかけながらの樹木観察、この時期に見られる花にビワの花があります。

11月下旬から翌年の2月に、枝先に円錐花序をつけ、その花序を大量の褐色綿毛が覆っており、その中に白色で芳香のある5花弁を咲かせるのです。受粉は鳥やミツバチ類に頼っていますが、自家受粉が可能な樹種としても有名です。

ビワ (*Eriobotrya japonica*) はバラ科の常緑高木で、もともとは中国原産とされますが、大分県佐伯市や山口県美祢市、福井県おおい町などの石灰岩地域に自生地があるとも言われます。また古い文献では、平安時代の「日本三代実録」や「本草和名」などにその名が見られ、利用されていたことは確かです。

私たちがふだん目にするビワの多くは中国産品種との交配品種で、果実の主産地は年平均気温が15℃以上の長崎県や鹿児島県、千葉県です。寒冷地でも冬に北西の季節風が当たらない日当たりの良い場所で、冬期にマイナス5℃程度であれば結実可能です。

葉は長さ15〜20cmで表面は革質で濃緑色、縁には浅い鋸歯(きよし)があり、短い葉柄があります。裏面には灰白色の短毛が密生し、枝葉は春、夏、秋と年3回の伸長成長するのが特徴です。

葉は打ち身や捻挫、皮膚病などに効き、この煎じ液を風呂に入れる人もいます。また、インドのアーユルヴェーダ(仏教医学)にはビワの葉療法があり、ビワの葉の表面を焦げない程度に火であぶり、熱いうちに腹部などを直接なでてマッサージするそうです。こうすることで葉に含まれる青酸配糖体アミグダリンやエムルシンなどが作用すると考えられています。

江戸時代には夏の暑気払いとして、ビワの葉や肉桂(につけい)、甘草(かんぞう)など7品目を混合して煎じた枇杷葉湯(びわようとう)を飲んでいたそうです。

果実はリンゴやイチゴと同じように、花床(かしょう)が肥厚した偽果で、枝先に房状につきます。球形または倒卵形の果実は薄い綿毛に覆われ、5〜6月に黄熟します。和名のビワ(枇杷)は果実や葉の形が、弦楽器の琵琶(びわ)に似ているからとされます。



▲多くの花を付けるビワ



あまり知られていませんが、木材は弾力があり木目が美しいため櫛材や印材、木刀、杖などに使われました。特に乾燥させると硬い上に粘り気が強く、激しく打ち合わせしても折れることがないため、アカガシやシラカシより高価な木刀として、宮崎県などでごく僅か生産されているのです。

恵那市立武並小学校 屋内運動場

恵那市武並町竹折1059-91



施設全景

● 施設概要

事業年度	平成29年度
事業主体	恵那市
構造・延床面積	木造 935.52㎡
施設用途	教育関連施設（屋内運動場）
木材使用量 使用樹種	25.64㎡ ヒノキ（県産材100%・25.64㎡）
全体事業費	276,480千円
助成額	6,760千円 （木の香る快適な公共施設等整備事業）
設計者	株式会社 サニー建築設計
施工業者	株式会社 小栗木材店
工期	平成29年6月29日～平成30年3月15日



施設の経緯

昭和46年に建設され、長年にわたり、小学校教育や社会体育の要として多くの利用者の皆様に利用されてきましたが、施設の老朽化が進んでおりました。

今回、建設にあたり、やさしい教育環境を目指して木造とし、床や壁は県内産のヒノキをふんだんに使い、ぬくもりを十分に活かした屋内運動場になりました。



ここに注目！！

内装にヒノキをふんだんに使用しているため、木に包まれた空間となり、癒やされる木材の香り、木の手触りを感じることができます。

利用者の様子

児童からは、「木の良い香りがする、明るくて暖かい」と喜ばれ、気持ちよく利用しています。

■問い合わせ先

恵那市教育委員会 教育総務課
TEL 0573-26-2111

岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムによる 知事への要望活動

—100年先の森林づくりを実行し 林業・木材関連産業を岐阜県の成長産業とするために—

岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム（以下、コンソーシアム）では、去る12月18日（火）に岐阜県庁において、岐阜県知事に対して人材の育成と活用など全43項目にのぼる提案・要望を行いました。

岐阜県議会林業活性化促進議員連盟会長の早川捷也県会議員の挨拶の後、涌井史郎理事長から古田肇知事へ要望書を手渡し、要望の主旨説明を行いました。続けて、各分野を代表して林業関連5団体（（公社）岐阜県山林協会・岐阜県森林組合連合会・岐阜県木材協同組合連合会・（一社）岐阜県林業経営者協会・（一社）岐阜県森林施業協会）の会長から、下記の提案・要望項目について内容の説明が行われました。

古田知事からは、「涌井理事長のリーダーシップのもと、コンソーシアムの活動が活発化してきており敬意を表する。来年度の予算編成に向け、要望内容をしっかり検討したい。」など、コメントをいただきました。

今後もコンソーシアムでは100年先の森林づくりを見据え、岐阜県の林業・木材関連産業を成長産業とするために鋭意取り組んでいきます。



▲ 要望を行うコンソーシアム理事長ら（奥）と
知事および林政部幹部職員（手前）



▲ 涌井理事長から古田知事へ要望書を手渡しました

■提案・要望項目

①人材の育成と活用

- 市町村林業行政等への支援強化
- 森林・林業に対する県民理解の醸成
- 担い手育成に関する予算の確保・施策の推進

②森林整備及び木材生産の推進

- 間伐・主伐・再造林の推進
- ニホンジカ等による森林被害防止の総合的な対策の充実
- 木材生産の効率化

③木材産業の活性化

- 木材の安定供給及び、製材工場の体制強化
- 多様な分野への木材利用の推進
- 新製品・新技術の開発促進



◀ 要望に対しコメントを
述べる古田知事

▶ 要望内容について
説明する涌井理事長



提案・要望内容の詳細については
コンソーシアムHPにおいて公開しております。
次のURL (<https://www.forest.ac.jp/company/consortium/>)
もしくはQRコードよりご確認ください。



【岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム事務局】（岐阜県立森林文化アカデミー 森林技術開発・支援センター 産学官連携係）

● 詳しい内容を知りたい方は TEL 0575-35-2535 森林技術開発・支援センターまで

ぎふ木育指導員養成講座

わたしの木育宣言

岐阜県では豊かな自然を背景とした「森と木からの学び」を『ぎふ木育』と称し、人が生まれ、次世代を育てるまでの約30年を目安とした『ぎふ木育30年ビジョン』を策定しています。森林に代表される岐阜県の豊かな自然や、それに影響を受けて育まれてきた伝統と文化に誇りを持ち、地域に関わり地域の将来を担っていく人材の育成に取り組んでいます。

その『ぎふ木育』の総合拠点として、「(仮称)木のふれあい館」の2020年春のオープンに向けて準備を進めています。

「ぎふ木育」を伝える上で、重要なアイテムである、木のおもちゃに触れ、遊ぶことができる空間。そこから、森林とのつながりを感じ、意識を森林へと向けていただくキッカケとなる施設を目指しています。

そんな森と街、人をつなげていく伝道師が「ぎふ木育指導員」です。「ぎふ木育」に関する座学や実技を通じ、専門的な知識を習得した者を認定しています。

今年度も20代から60代までの幅広い年齢層の方、そして、保育士、児童館職員

介護士、陶芸家など、多種多様な職種の方10名が養成講座を受講し、認定を受けました。



この講座は、講師陣及び内容がバラエティに富んでいることも魅力の一つ。森からのアプローチとして里山や森林空間の活用、暮らしからのアプローチとして竹細工や木を使ったモノづくり、それらを伝える手段としてのプログラムづくり、更には子育て・高齢者支援の現状や課題など様々です。

このように多様な切口からはじまる講座ですが、回を重ねるごとに、受講生自らが「ぎふ木育」のキーワードは「多様性」であることを理解していきいます。

今年は、毎回、講座の最後の時間に、紙やすりで積み木を磨きながら会話をする「木育カフェ」を行いました。その日の講座の内容を振り返ると共に、他者の考えを共有し、共感するなど受講生相互のコミュニケーションを図ることができました。

最終講座では、これまでの学びを通じて、受講生一人ひとりに「わたしの木育宣言」を発表してもらいました。これは、自分にとっての「ぎふ木育」を見つめることで、自分ができること、やりたいことを明確にし、宣言することで、「ぎふ木育指導員」としての自覚を促す狙いがあります。

発表の手法も様々で、紙芝居を描いた人、パネルシアターを作った人、自ら考えたワークショップの内容を実演するなど、自分なりの「ぎふ木育」論を声高らかに宣言されていました。



とはいえ、全7回(8日間)の講座で「ぎふ木育」の全てを学べるほど甘いものではなく、これからの新たな学びのスタート! そんな時、自分に足りないものを補い支えあえる仲間の存在は大きく、そして心強いものです。

今後「ぎふ木育指導員」としてのご活躍に期待します。

(恵みの森づくり推進課 河合)



認定者10名

安藤 厚子、今井 眞紀子
植村 友美、白田 陽子
大野 裕之、勝島 直美
坂本 賢次、田島 佳美
野村 美香、松田 美樹子

養老町の森林づくり



養老町の概要

養老町は養老山地に抱かれた歴史の町です。町の名前の由来は、西暦717年(霊亀3年)に元正天皇が美濃国へ行幸された際、立ち寄った泉の水を飲んだところたちまち健康になり「老いを養う」美泉であると元号を改元したことによります。平成29年度にはこの改元を町おこしのきっかけとするため、「養老改元1300年祭」を開催し、多くの観光客で賑わいました。

養老町の森林面積は1,829ヘクタールと町の約1/4を占めており、その大部分が民有林(1,814ヘクタール)となっ



▲養老の滝

養老桜・紅葉の山プロジェクト

養老町の養老公園は養老の滝、養老天命反転地等を有し、年間100万人を超える観光客が訪れる観光名所でもあります。春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と風光明媚な景色を楽しむことができますが、近年、桜や紅葉の木の老木化や虫による被害、土砂崩れなどによる景観形成上の問題が出てきています。

そこで、本年度、県の「清流の国ぎふ森林・環境基金事業補助金」を活用して、「養老町観光景観林総合整備計画」を策定し、養老公園周辺だけでなく養老山地の観光景観を整備し、行政だけでなく地域住民と共同

で植栽、間伐等を行い、養老山地を桜・紅葉の名所としてさらに発展させて行くべく「養老桜・紅葉の山プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは単年度の事業ではなく、5年、10年をかけて整備を行い、10年、100年先まで残していく、中・長期的な計画になります。

11月8日(木)にはプロジェクトのキックオフイベントとして、養老駅前広場にて記念式典を開催し、エドヒガンザクラの記念植樹を行いました。式典では、保育園児による鼓笛、プロジェクト構想の披露などがあり、子どもたちが大人になった頃に、現在植樹している桜が綺麗に咲き誇るよう



▲養老駅前前で記念植樹



▲養老山地30年後予想図

今後の観光景観林整備に取り組んでいきます。

養老町の治山事業

養老山地は西側(大垣市上石津町)は比較的緩やかな地形ですが、東側養老町は急傾斜が多い地形となっています。急峻であることから水の流れが速く谷が多く存在し土砂崩れや洪水の危険性があります。

そこで岐阜県の治山事業により治山堰堤、土留め工などの治山工事を行うことにより、森林の保全、地域住民の安全に寄与しています。



▲勢至南谷治山堰堤現場

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0584-3211107(直通)

養老町役場農林振興課まで

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

9

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

生態系保全団体支援事業

～団体による里地生態系保全の取組みを支援します～

【事業実績】

県では団体がおこなう里地里川の生態系を復活又は保全するモデル的な取組みを支援し、県内の里地における生態系保全を推進しています。

平成29年度は、7団体における生態系保全の取組みを支援しました。

実施団体名	活動市町村	活動内容
東海タナゴ研究会	海津市、養老町	池干しによる外来種駆除と在来種の調査の他、ウシモツゴの保護活動を実施
特定非営利活動法人 山菜の里いび	揖斐川町	耕作放棄地を有効活用し薬草の保全を実施
かわせみの杜 関山田・棚田の会	関市	耕作放棄地、畔、農作業通路、水路の整備、保全管理、山土の流出防止作業等
里山クラブ可児	可児市	再生した棚田、ピオトープ池を活用した体験活動の実施
今川生態系推進協議会	関市	田園の生態系保全及び荒廃地活用による景観形成のための整備活動等を実施
環境パートナーシップ・可児	可児市	絶滅危惧Ⅱ類「ヒメコウホネ」の保全に向けたプロジェクトの展開
恵那こぶしの会	中津川市	過去と現在の生態系に関する研究、自然観察会など環境教育を実施



ミニシンボジウムの開催
(東海タナゴ研究会)



荒廃農地の草刈除根
(NPO法人 山菜の里いび)



再生した耕作放棄地での田植え
(かわせみの杜 関山田・棚田の会)



再生した水田での稲刈り体験
(里山クラブ可児)



排水路での生き物調査
(今川生態系推進協議会)



ため池での環境調査
(環境パートナーシップ・可児)



子供達との環境調査
(恵那こぶしの会)

【恵みの森づくり推進課 富本 守】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8472 清流の国ぎふ森林・環境税活用サポート窓口まで



山のおじゃまむし



ー 越冬場所は蜂の巣、フクラスズメ ー【第331回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

昆虫類の中には巣を造って、家族で生活しているものがある。アリの仲間だ。巣にはたくさんのアリ。時には数千もの大家族になることがある。巣があるのは土中や枯木。この巣を壊すと、中から次々とアリが出てくるので、大家族であることが実感できるであろう。ところが、この中にはアリでない昆虫が混じっていることがある。これらの昆虫は、言うなればアリ家族の居候。巣の中でアリの幼虫を食べて暮らしているのである。しかし、アリにもそれ相応の見返りがあるので、居候と言うより家族の一員なのかも知れない。アリ巢内の家族生活は、複雑で実に奥が深い。アリ以外では凶暴なスズメバチの仲間も家族生活をしている。特にキイロスズメバチ。ドッジボールのような丸くて大きな巣の中にもたくさんのハチが暮らしている。この蜂の幼虫は大きくて丸々と太っているので、餌としては魅力的だ。他の昆虫が見逃すはずがない。この幼虫を食べている居候がいるはずだ。と私は前々から思っていた。しかし、そのような記録は見当たらない。ますます興味が湧き、キイロスズメバチの巣の中を見てみたいと機会を待っていた。一昨年の12月、救世主が現れた。知人が私のためにキイロスズメバチの巣をとってきてくれたのである。この中に居候がいるのだろうか。巣を壊して調べるのが楽しかった。しかし、あまりにも立派な巣だったので、止めることにした。我が家の床の間に飾っておこうと心変わりしたのである。自宅へ持ち帰るため、この巣をビニール袋に入れて自家用車の中に置いた。ところが、これが思わぬドラマ?の展開となった。巣の中から大きな蛾のフクラスズメがたくさん出てきて、袋のなかで羽ばたいていたのである。フクラスズメがキイロスズメバチ家族の居候だったのかと驚いた。しかし、今の時期は巣の中にハチはいない。越冬場所として利用しているのだと思った。新発見だ。このことを発表するため、次のような原稿を昆虫雑誌に投稿した。

× × × ×

私は、蛾類についての知識がないので特に珍しい記録でないかも知れないが、岐阜県でキイロアシナガバチの巣の中でフクラスズメが越冬?しているのを確認したので報告する。以下、その経緯。2016年12月、知人のM氏から岐阜県恵那市明智町大泉の橋の裏側で採取した大きなキイロスズメバチの巣をいただいた。巣の中を見てみようと思い、とりあえず大きなビニール袋に入れ自家用車の中に置いた。1時間後ビニール袋の中で5匹の蛾が羽ばたいていた。フクラスズメであった。この巣の中から出てきたことは間違いないので、キイロアシナガバチの巣はフクラスズメの越冬場所になっているのではないかと考えた。そこ

で、まだ巢内にいるのではないかと思います、ビニール袋の中へ酢酸エチルを少し流し込み、苦しんで出てくるのを待つことにした。2時間後、新たに27匹出てきた。さらに2時間後、13匹増えて合計45匹にもなったのである。

× × × ×

これだけたくさん出てきたことからキイロスズメバチの巣はフクラスズメの越冬場所となっているものと確信した。たまたま、この日は日が照り、車中が暖かかったので、巣から出てきたものと思われた。しかし、夕方以降は寒くなったせいか脱出虫はいなかった。翌日、巣を見ていたら表面が一部破損し、そこに死亡しているフクラスズメが1匹いた。このことから、まだ巢内で死亡しているものがあるようにも思われた。しかし、この大きな巣を床の間に飾れば見栄えがすると思い、巣を壊して調査することはしなかった。いずれにせよ、このキイロスズメバチの巣の中には46匹ものフクラスズメが越冬していたことが確認された。巣から出てきた大量のフクラスズメを見ているうちに、どこから入ってきたのだろうと巣の表面を見ていたら、中央部付近に3cmくらいの丸い穴があいていた。この穴だったらフクラスズメが出入りできる。この穴に間違いないと思った。しかし、この穴をフクラスズメがあけたとは思えない。ではこの穴は何なのか。こんな疑問が残った。

× × × ×

この報告は注目され大きな話題になると、私は確信していた。ところが何の反応もなし。私は落胆した。これは原稿が悪かったからではないか。そんな気がしたので、原稿を読み直した。



大きなミスがあった。それ ▲巣から出てきた大量のフクラスズメは、「フクラスズメが出入りしたと考えられる3cmくらいの丸い穴は何なのか」の部分。答えは蜂の出入り口。誰もが知っていることだ。フクラスズメはこの穴から巣に入ったのである。何でこんなことを書いたのかと恥ずかしくなった。しかし、このようなミスを誰も指摘してこない。虫好き人間の世界も変わってきたものだと思った。それと、気になることがもう一つ。まだ、巣の中には巣で死亡したフクラスズメが残っているに違いない。どれだけいるのか。これが少々気になるが、これを知るには床の間に飾ってある巣を壊さなければならない。しかし、その気はまったくないので、この答えは得られそうもない。



あたらしく楽しく的確な 「空き家対策」を目指して

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 松井匠

「空き家問題」って聞いたことがありますか？近所のお家や、親戚の家が、誰も住んでない状態でそのままになっていること、それが空き家です。今、日本では空き家が増えて社会問題になっています。

別に、家がそのままになっていてもいいじゃない？と思うかもしれませんが、これがそうでもないのです。

- ・朽ちていると地震で倒壊の恐れがあり危険。
- ・火事になると住人がいないため初期消火ができず周囲へ延焼の危険性が高い。
- ・動物が棲みついてしまい不衛生。
- ・不法占拠の恐れがあり治安が悪化する。
- ・朽ちたり、取り壊して空き地になってしまう

ことで町並みが壊れてしまう。などが挙げられますが、空き家の増加は地域にとって良くないことなのです。

家は人が住んでいると健全に保たれます。誰も住んでいないと朽ちてしまいます。

全国的にも、2013

年に13・5%だった「空き家率」は、2033年には30・2%まで増加することが予想されています。つまり4軒に1軒が空き家になるということです。



こうした中「空き家を利用して地域を活性化しよう」という動きが全国的に活発になっています。古い建物を改修して賃貸物件にしたり、旅館、カフェなどの店舗やオフィスにしたり、様々な活用が実践されはじめています。

では具体的にどのように再生活用しているのでしょうか。

昨年6月、空き家再生の最前線を知るため、森林文化アカデミーの専門技術者研修「これからの木造建築を考える」の中で、空き家対策スペシャリストとして、美濃・郡上地域で活躍する二つの団体をお呼びしてお話いただきました。

美濃からは「一般社団法人インク」の中島昭之さん、郡上八幡からは「郡上八幡空き家対策チームまちや」の武藤隆晴さん、山崎寛功さん、猪股誠野さんです。

「インク」の中島昭之さんは、アカデミーの卒業生。美濃の「うだつの上がる町並み」の中に建つ古民家におフィスを構え、古民家の再生・調査を行っています。中島さんは建



築士であると同時に、調査に秀でた「住宅医」(一般社団法人住宅医協会公認)でもあります。建築の専門家としての技術や知見を活かして、空き家再生のツボを押さえながらも、一般の人を集めてワークショップ形式で床張りや左官を行います。それらと併行して「美濃わっしょいマルシェ」など美濃の魅力を広く伝えるイベントを開催するなど、持ち前の人柄と行動力で、幅広い企画を担っています。参加する人が楽しくなり、かつ建物や地域に愛着が湧くような「お祭り感」のある活動を展開されています。

この日は、空き家調査の方法論(ハード面)、広域な活動の紹介、その楽しさについてお話しいただきました。

「チームまちや」の武藤隆晴さんは、生まれも育ちも郡上八幡。旧八幡町役場にお勤めで、30年以上郡上八幡のまちづくりに関わって来られた方です。

郡上八幡は近年U・ターンの移住者が増加しています。移住者は若者も多く、通り沿いに新たな町家カフェやラーメン店、絨毯ショップ、木工製品店などをオープンさせて、町を活性化しています。



その背景にあるのが「チームまちや」の存在です。2015年に発足し、家主とやりとりをしながら、町家を賃貸物件として改修を行います。移住者の募集、仲介まで一貫して行っています。改修は毎年6、7軒ペースで実施され、2018年現在まで満室になっており、誰も町を離れていません。

町の基金をもとに外郭団体をつくって、空き家を改修することで、町並みを守り、町に若者を呼び、人口を増やす事業の仕組みは、空き家対策の成功例として全国から視察が絶えません。

- この日は、空き家再生の仕組みづくりをするときに大切なことと、新たな課題についてお話しいただきました。(ソフト面)
- ハード面とソフト面の両方の話が聞けたことで、空き家対策で大切なことがいくつか見えてきました。
- 人の暮らしを町ごとでデザインしていくには、一つの特化した専門性だけでなく、スケールの大きなトータルな視点が必要となること。
- その建物、その町に住む人のことを、丁寧にイメージすること。
- 現場には挑戦と葛藤がいつもあり、建物も町も、何かをつくることの先端においては、常にそうであること。

美濃市と郡上市は隣同士ということもあり、互いに連携してさらなる活性化が期待されます。

こういった活動が全国各地に広まり、美しい町の風景が、人の日常を生き生きとさせたら、素晴らしいですね。



治山・林道研究課題

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。昨年2月に行われた発表会で発表された研究課題を紹介します。

ドローンを活用した写真測量による地形変化の把握

飛騨農林事務所森林保全課 松原智

はじめに

調査対象は飛騨市西漆山字曲り谷地内です。平成29年7月の豪雨で現況が大きく変化し、計画の見直しが必要となりました。被災直後の調査は危険であり、安全かつ効率的に復旧計画を策定する手法として、ドローンによる空中写真測量を採用し、その効果と実用性を検証しました。

調査概要

一 現場状況の把握

被災前と被災後のドローンによる空中写真を比較し、荒廃状況と溪床変動を確認しました。

二 溪床の変動傾向と発生土砂量の確認

被災前の現地測量成果と、ドローンによる「数値標高モデル（以下、DEM）」を比較し、溪床の変動傾向の解析と流出土砂量の算出をしました。

三 溪床変動の把握

平成21年のDEMとドローンによるDEMを比較し、8年間の溪床変動の傾向を把握しました。

調査結果

一 写真測量による検証

被災前と今回の空中写真を比較すると、はっきりと溪床変動を確認できました。また、高原川に流出した土砂の堆積範囲が広がっていることも確認できました（図1）。

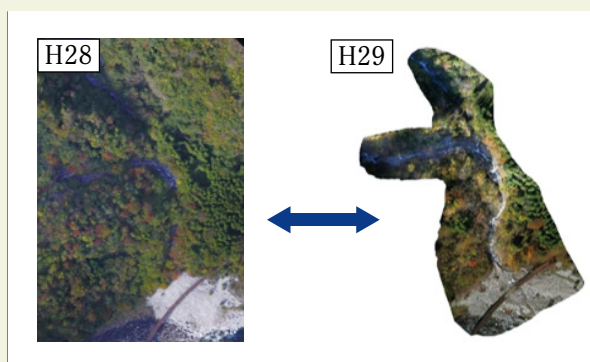


図1 空中写真の比較

二 溪床の変動傾向

作成したDEMから縦断面図を作成し、被災前の実測縦断面図と比較しました。既設谷止工に異常堆砂していた土砂が流出し、その下流は溪床の縦侵食が進み、高原川に流出し堆積していました（図2）。同様に、DEMから横断面図を作成し比較すると、約2,100㎡の土砂が高原川へ流出していました。

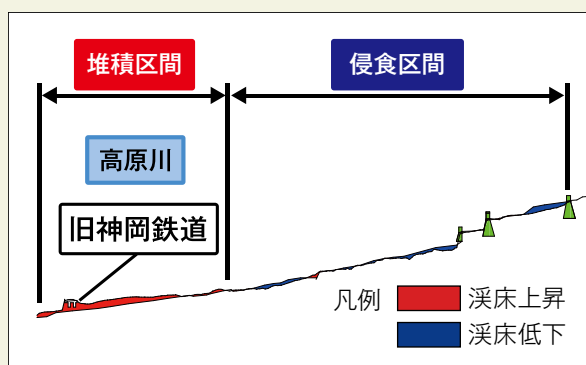


図2 縦断面図の比較

三 過年度における溪床変動

平成21年度のDEMと比較すると、既設谷止工の上流は溪床が上昇しており、谷止工が土砂の流出を抑制していました。一方で、谷止工間の溪床が下降していることから、堆砂した土砂の流掃と、最下流谷止工から高原川までの区間の溪床の侵食が確認できました（図3）。

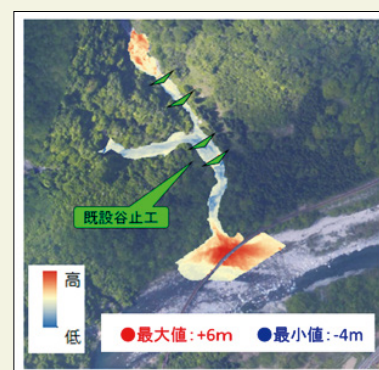


図3 過年度の溪床変動

まとめ

ドローンによる空中写真測量は、従来の航空写真測量より、高解像度の写真データを得られます。また、調査時間が短縮でき、早期に精度の高いDEMを作成できます。このため、過去の測量成果との比較により、溪流の荒廃状況の変化を正確に把握でき、早期の治山計画立案が可能となります。

一方で、樹木などの障害物により地表面が撮影できない場所は、正確な標高値を得られないため、現地の実測値を合成させるなどの作業が必要です。

これらの特徴を生かし、すでに治山事業を計画している箇所で災害が発生した場合の再検討や、現場に立ち入ることができないが早急に成果が必要とされる場合に、安全で効率的に地形変化の把握が可能であることが実証されました。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0577-331111(代)

飛騨農林事務所 森林保全課まで



図1 ヒノキ採種木に実る球果

採種園とは、遺伝的に優れた特性等をもつ造林木の種子を多量に生産するための樹木園です。採種園で生産された種子は、苗木生産者へ配給されます。

採種園では多くの場合、主にスギやヒノキの種子を生産しています(図1)。しかし、どこの採種園でも管理者の頭を悩ませている問題があります。それが、スギ・ヒノキの球果を加害し、種子の発芽率を著しく低下させる害虫カメムシです。

採種園と現場の問題

採種園の大害虫カメムシ

森林研究所 ● 片桐 奈々

スギ・ヒノキ採種園の大害虫カメムシ

採種木は、植物ホルモン処理による着花促進が行われるため、通常より鈴なりに実をつけます。餌が豊富な採種園は、カメムシ等にとって格好の繁殖場所です。カメムシは球果にストロー状の口を刺し、種子の胚を吸います。そのため、ひどい場合には発芽率が10%以下まで低下します。

スギ・ヒノキの球果を食害するカメムシは複数種存在しますが、全国的に(岐阜県でも)最も問題となっているのは、チャバネアオカメムシです(図2)。成虫の体は黄緑色で翅が茶色く、大きさは1cm程度です。成虫と幼虫がともに球果を加害します。



図2 ヒノキ採種木に産卵するチャバネアオカメムシ

防除の方法

カメムシの被害対策として、現在のところ、虫が入れない網目サイズのネットでは球果のついた枝を覆う方法が主に行われています。

岐阜県では、5月上旬頃に周囲から越冬した成虫が飛んできて、8月に最も多くなります(図3)。5月上旬には、球果が膨らみ始めているため、遅くとも5月には防虫ネットをかぶせる必要があります。

しかしこの方法には、労力がかなりかかること、高さ4~5mの採種木への設置には作業員の危険が伴うことなどの問題点があります。森林研究所では現在、これらの点を克服

した防除方法の考案に取り組んでいます。

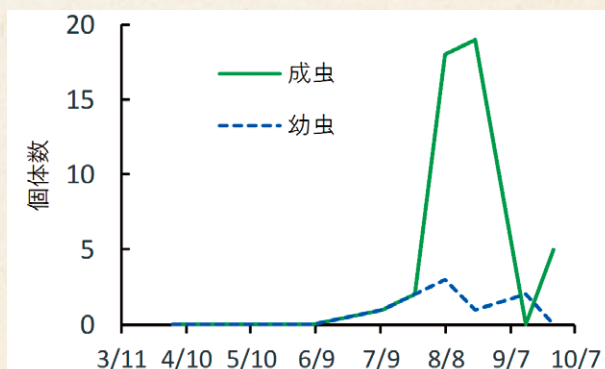


図3 白鳥林木育種場におけるチャバネアオカメムシの個体数変動(2018年)
※個体数は、叩き落とし法により球果のついた枝9本(採種木3本×枝3本)から採集した合計頭数

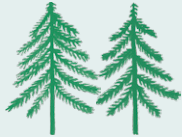
● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで





飛騨地域における普及活動



■飛騨農林事務所 林業普及指導員 伊藤 曜仁

地域の概要

今回は飛騨市において平成29年度から取り組んでいる「広葉樹のまちづくり」と普及活動の事例を紹介いたします。

飛騨市の広葉樹のまちづくりの取り組み

飛騨市は岐阜県の最北部に立地し、森林面積は74千ha、森林率は93%と広大な森林面積を誇っています。その一方で、民有林の人工林率は29%と岐阜県の平均の45%を大きく下回っています。豪雪地である飛騨市は、立地的にスギ、ヒノキを中心とした建築用材の生産を目的とする林業にとつ



▲飛騨市の森林

て有利とはいえません。その一方で、飛騨地域では多くの木工職人や家具職人が活動しており、広葉樹を活用するマーケットが存在していました。

このように、広大な天然林と多くの木工職人が活動する飛騨市では、「広葉樹のまちづくり」を通じて地方創生に取り組みこととなりました。しかし、広葉樹を中心とした施策は例が少なく、飛騨市としても手探りの状況であったため、飛騨地域の林業普及指導員が支援していくこととなりました。

現状及びこれまでの取り組み

1. 平成29年度の状況

平成29年度、飛騨市は独自で取り組んでいる「広葉樹のまちづくり」と岐阜県全域で取り組んでいる「森林配置計画」の2つの計画の作成に取り組みしました。（※森林配置計画とは、望ましい森林の姿への配置転換を目指した取り組みである。本計画では、適地適木、適施業を柱に地域ごとに10年後の望ましい森林の姿を示し、持続的な林業経営の実施を目指す「木材生産林」と公益的機能の維持・増進を目的とした「環境保全林」などそれぞれの区分に適した施策を展開して、持続可能な森林経営を目指すもの。）

しかし、この2つの計画に取り組む中で、それぞれの計画の趣旨及び目的

の違いに直面していました。

森林配置計画は持続可能な森林経営を目指すもので川上側が中心となる一方、広葉樹のまちづくりは広葉樹を起点とした地方創生を目指す川下側が中心の計画であり、施策的な整合を図ることが必要となっていました。また、広葉樹のまちづくりを通して地方創生を進めていく上では、計画の策定だけではなく、幅広く飛騨市の市民の方の声を入れた計画にすることが重要でした。



▲(株)飛騨の森でクマは踊る(第三セクター)の家具

2. 取り組み内容

飛騨市では、「森林配置計画」と「広葉樹のまちづくり」の2つの計画策定を個々で取り組んでいました。そこで、どちらも同じ飛騨市の森林に関する計画であるため、一体的に取り組むことを助言しました。その際に、川上と川下の双方の意見の集約、協力した森林づくりを目指す場が必要である

ことから、「飛騨市森林配置・活用促進円卓会議」の設置について提言しました。この円卓会議は、できるだけ多様な関係者等を募り、広葉樹の森林づくりのための具体的な方策の検討を進めることを目的としています。



▲円卓会議

また、広葉樹の活用を目的として、広葉樹を活用した地域づくりの先進地である北海道中川町への視察、広葉樹施業のためのモデル林の設置、市民の声を聞くための全世帯アンケートの実施、一般の市民に森林づくりに興味を持ってもらう取り組みとして、飛騨市が実施する広葉樹のまちづくりセミナーの開催についても計画段階から内容の検討などに協力しました。



▲広葉樹のまちづくりシンポジウム

3. 取り組み結果

飛騨市森林配置・活用促進円卓会議を設置したことにより、飛騨市の林業・木材産業関係者のみならず、多様な方が集まり、飛騨市の今後の森林づくりに関することを話し合う機会を作ることができました。また、会議の中ではそれぞれの感じていることや問題意識を共有することになり、関係者が一丸となって、飛騨市の森林づくりについて話し合う場となりました。

また、飛騨市の市民を対象として実施した全世帯アンケートにより、普段は聞くことができない市民の生の声を聞くことができました。

1. 今後の取り組みべき内容 具体的な手法又は検討方法

多様な関係者が意見を交える場として円卓会議の設置などを支援しましたが、今後は多様な関係者と意見を

交わす中で飛騨市の森林づくりの方策を飛騨市及び円卓会議のメンバー等とともに議論を深めていきたいと思っています。また、その実現に向けた森林配置計画の具体的な基準の設定、将来目標区分の設定と運用方針の作成についても飛騨市の取り組みを支援していきます。

広葉樹のまちづくりセミナーや飛騨市で実施した全世帯を対象としたアンケートなどを通じて市民の関心が高まってきたので、森林配置計画はそれらの声を反映したものにしたいと考えています。

2. 期待する成果

飛騨市森林整備計画が実行性を持ったマスタープランとなるように引き続き飛騨市の森林づくりを支援し、平成31年度までに飛騨市の森林配置計画及び広葉樹のまちづくり計画が策定できるよう支援します。この計画及び計画の作成を通して、これまで以上に川上と川下を結び付け、両者がともに取り組んでいける飛騨市の森林整備計画が「生きたマスタープラン」となることを期待しています。

おわりに

飛騨市の広葉樹のまちづくり及び岐阜県で取り組んでいる森林配置計

画については、これを議論し深めていく場として、円卓会議の設置に至りました。この円卓会議は、飛騨市のこれからの森林の姿と広葉樹を活用した地方創生の双方について話し合う貴重な場となりました。この円卓会議には、林業・木材産業界のみならずさまざまな方が集まった事により、多様な意見が出され、我々もこれまで以上に飛騨の森林について考える機会となりました。

多くの人が植えて育ててきた人工林を今後どのように導くかはとても重要です。しかし、飛騨地域においては、広葉樹が多く、また、その広葉樹を活用しようとする数多くの木工職人・家具職人の方々が活動しているため、人工林をどうするかということと同様に広葉樹林をどのように活用していくかが非常に重要な課題となっています。

広葉樹のまちづくりと森林配置計画の取り組みは始まったばかりで、形になっていない部分も多くあります。このため、これからより一層議論を深めこの大きな課題に応えられるよう地域の関係者のみなさんと一緒に考え、取り組んでいきたいと思っています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0577-331111

飛騨農林事務所まで



環境保全林における 針広混交林化の検証を進めています

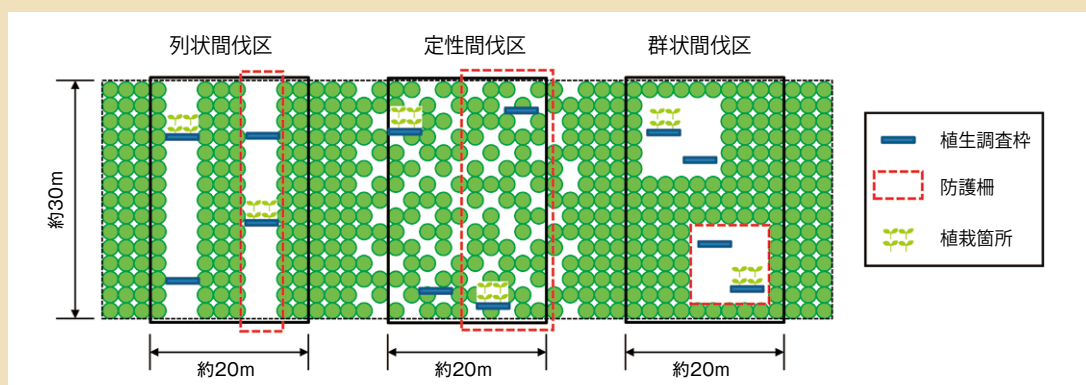


昨年度から取り組みが始まった「100年先の森林づくり」では、県内すべての民有林を「木材生産林」または「環境保全林」に設定することとしています。県では急傾斜地や路網が整備されていない森林など、持続的な林業経営に適していない造林地として「環境保全林」に位置づけられた針葉樹人工林において、公益的機能を重視した森林へ誘導するための施業として間伐を調査区ごとに2～3種類の方法（定性間伐・列状間伐・群状間伐）で試験的に実施し、針広混交林の成立条件を調査します。

試験は本巢市、揖斐川町、八百津町、中津川市及び高山市の県有林または市（町）有林で実施しており、森林研究所の協力を得て今後5年間程度をかけて調査をした後、結果をとりまとめて公表することとしています。



検証用プロットの設定状況（揖斐川町）



調査区域のイメージ図

【林政課 100年の森づくり推進室 川口 晋平】 ●詳しい内容を知りたい方は [TEL 058-272-1111](tel:058-272-1111) 内線(3025) 林政課まで

岐阜県自然公園について



自然公園は「公園」と付きますので、よく木曽三川公園やぎふ清流里山公園のような都市公園と混同されますが、自然公園は優れた自然の風景地の保護と利用を目的に指定した地域で、国が指定する国立公園と国定公園、県が指定する県立自然公園を合わせて県土面積の約2割を占めています。

各自然公園で定める公園計画には、規制計画と事業計画があり、規制計画で特別保護地区、第1種特別地域、第2種特別地域、第3種特別地域、普通地域を指定しています。事業計画は自然公園の利用を進めるための計画で、例えば御嶽山の登山道や五の池小屋、スキー場などは公園事業の認可を受けて整備されたものです。

ここでは自然公園の施設整備の一例として、乗鞍岳（中部山岳国立公園）を紹介します。乗鞍岳はマイカー規制されていますが、バスに乗れば車で行ける日本一高い場所（標高 2,702m）へ行くことができます。駐車場には公衆トイレがあり、階段を降りるとお花畑木道があります。これらの施設は県（環境企画課）で整備したもので、今後も多くの来訪者の皆様に安全にご利用いただけるよう、木道の改修工事や登山道の安全対策などを進めていきます。

バスに乗るだけで行ける森林限界以上の高山植物の世界。運が良ければライチョウを見たり鳴き声を聞くこともできますので、来シーズンは訪れてみてはいかがでしょうか。



乗鞍岳のお花畑木道



高山植物の女王 コマクサ

【環境企画課 大島 愛彦】 ●詳しい内容を知りたい方は [TEL 058-272-1111](tel:058-272-1111) 内線(2698) 環境企画課自然公園係まで



七宗町上麻生地区森林共同施業団地 (ケーススタディ地区) 技術指導を伴う現地検討会

ケーススタディ(事例研究)地区に指定されている七宗町上麻生地区森林共同施業団地では、民国連携による勉強会等の取り組みを重点的に行っています。

先日は、国有林をフィールドとして提供することにより、民間主導による現地検討会が開催されましたのでご紹介します。

この現地検討会は、福井県の企業が開発した「グラップル脱着式バケット」を用い、効率的な路網開設を行うというものです。主催したのは、国有林の立木販売購入者である岐阜県森林組合連合会です。前述の企業の協力により現地へ機体とバケットを実際に持ち込み、効率的な路網開設、補修にかかるデモンストレーションが行われました。日頃、路網開設に携わっている参加者からは、「製品の耐久性はどの程度か」「グラップルメーカー別の対応はどうか」といった実践的な質問が、活発に出されていました。

今後も、当署では、ケーススタディ地区における地域林業の発展に向けた取り組みを、重点的に実施していきます。



【岐阜森林管理署】

森林・林業関係イベントカレンダー(2月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
2月5日(火)	刈払機取扱作業者 安全衛生教育	●講習時間: 9:30~15:30 学科 15:30~16:30 実技 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,340円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月6日(水)~ 2月7日(木)	伐木・チェーンソー 作業従事者特別教育	●講習時間: 6日 学科 8:30~17:40 7日 実技 8:30~17:30 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 18,900円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	6日 学科 森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 7日 実技 岐阜県森連岐阜支所(関市倉知字物見山) 林材業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月19日(火)~ 2月22日(金)	フォークリフト 運転技能講習 【受講資格】 自動車普通運転免許 所持者	●講習時間: 1日目 8:30~16:30 学科 16:30~17:30 学科試験 2~4日目 8:30~17:30 実技試験 ●申込: 開催日の20日前まで ●受講料: 31,860円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	(学科) 伊自良中央公民館(山県市大門912-1) (実技) ぎふ農協旧伊自良共選場(山県市洞田127-5) 林材業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

平成30年度から「森林のたより」編集委員となり、気付けば1年が終わろうとしています。主に研究コーナーの記事の編集を担当しています。今年度の研究コーナーはいかがだったでしょうか。最先端の研究成果を読者の方々へお届けできるよう、尽力してきましたつもりです。

現在、研究員として森林保護分野や造林分野の研究開発に携わっており、今月号の研究コーナーの執筆も担当しています。県民の方々に役立てていただく研究を行う研究員の立場から、「森林のたより」は、開発した技術や研究成果を一般の方へ普及するための場として非常に重要だと考えています。研究コーナーを読んで疑問を感じたり、紹介した技術、研究成果を現場で使いたい等の要望があれば、岐阜県森林研究所までお気軽にお問い合わせください。

「森林のたより」編集委員 片桐 奈々

イベント情報

3月1日発行

連載

- 山の歳時記(163)
- 山のおじゃまむし(332)

森の名手・名人

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(75)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(73)

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政(27)

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

3月号
予定

市況

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1680回 岐阜共販所 (初市) 1月15日	すぎ	3 m	16~18cm	12,500	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
		4 m	16~18cm	11,500	—	
			20~22cm	13,800	—	
			24~28cm	13,000	18,600	
			30cm以上	12,000	48,000	
	ひのき	3 m	16~18cm	17,500	—	
		4 m	20cm以上	15,300	—	
			16~22cm	17,500	—	
			24~28cm	16,500	—	
			30cm以上	15,500	150,000	
第1256回 飛騨共販所 (初市) 1月16日	すぎ	3 m	16~18cm	12,000	—	
		4 m	24~28cm	11,500	—	
			30cm以上	11,000	15,000	
	ひのき	3 m	16~18cm	18,000	20,000	
		4 m	20~22cm	17,000	—	
			24~28cm	15,500	—	
		6 m	30cm以上	16,000	75,600	
	まつ	4 m	16~20cm	27,000	—	
		4 m	24~28cm	8,500	—	
			30cm以上	9,000	—	
第1588回 東濃共販所 (初市) 1月17日	すぎ	4 m	24~28cm	12,000	—	
		4 m	30cm以上	13,000	20,000	
			30cm以上	18,000	—	
	ひのき	4 m	24cm以上	18,000	37,100	
		3 m	16~20cm	12,800	13,400	
			22~28cm	13,000	18,000	
	ひのき	4 m	30cm以上元	13,500	40,000	
			16~20cm	17,600	35,000	
		3 m	22~28cm	15,000	33,000	
			30cm以上元	18,500	52,000	
(初市) 1月17日	ひのき	4 m	13cm以下	9,000	—	
			22~28cm	16,000	35,000	
		6 m	30cm以上元	20,000	70,000	
	まつ	4 m	18~20cm	25,000	—	
			22~28cm梁	7,000	—	
	まつ	4 m	30cm以上元	9,000	—	

木材市場

平成31年 新春初市を開催、雪も少なく出材は順調【商況】

価格はやや上向き、良質材への入札は活発。並材も大型工場向けが若干の上げで推移。合板向けもスギ4m、ヒノキ4mを中心に上げの基調となった。合板向けスギ・ヒノキ非常に不足しております。共販所担当者まで一報ください。(岐阜)

スギ並材は横ばいで推移、ヒノキ並材は若干値を下げた。ヒノキ民有林良材が人気で応札は活発。広葉樹良材は相変わらず人気で、ホウ、サクラ、ミズメ、マクルミ、トチが強気。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m・3m・4m・6mは、応札多く横ばいか、若干高値。ヒノキ並材は3m・4m(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札も多くやや高値、二番玉並材は3m・4m(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(東濃)

製品卸売標準価格 (12月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	61,000	(2,000)	→
		3000	120	120	国産5層	61,000	(2,630)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (12月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	317	米梅	へム(アラスカ産)	299
	コースト(目荒)	324	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)



SPF

木材用語一口メモ

北米産のスプルース(Spruce:トウヒ類)、パイン(Pine:マツ類)、ファー(Fir:モミ類)の3種が混在した木材の総称。性質にそれ程の差がないため、樹種を区別することなく、SPF材として販売されています。ツーバイフォー住宅の構造材として多くが使用されています。